

自治労・東学ニュース

東京都学校事務職員労働組合（東学） 新宿区西新宿2-8-1 都庁第2本庁舎32階
（情報通信メディア調査特集） 2025年7月7日 NO.735

総務省 「令和6年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」結果を報告

主なメディアの平均利用時間

- 主なメディアの平均利用時間について、全年代では、平日、休日ともに「インターネット」の平均利用時間が最も長く、「テレビ（リアルタイム）視聴」がこれに続く傾向が継続しています。
【平日】インターネット：181.8分（+8.2分）、テレビ（リアルタイム）：154.7分（-8.2分）
【休日】インターネット：183.7分（+4.0分）、テレビ（リアルタイム）：182.7分（-19.3分）
- 年代別にみると、休日の40代で「インターネット」の利用時間が「テレビ（リアルタイム）」を初めて超過。平日、休日の60代で「テレビ（リアルタイム）」の利用時間が大幅に減少。

主なソーシャルメディア系サービス/アプリ等の利用

- 主なソーシャルメディア系サービス/アプリ等の利用率について、全年代では「LINE」が91.1%、「X（旧 Twitter）」が43.3%、「Facebook」が26.8%となっている。動画共有系では、「YouTube」が80.8%、「TikTok」が33.2%となっています。

目的別の利用メディア

- 「いち早く世の中のできごとや動きを知る」ために最も利用するメディアとしては、全年代では「インターネット」が54.4%と最も高い。年代別では、10代から50代では「インターネット」、60代及び70代では「テレビ」を最も利用しています。
- 「世の中のできごとや動きについて信頼できる情報を得る」ために最も利用するメディアとしては、全年代では「テレビ」が51.6%と最も高いです。年代別では、20代及び30代では「インターネット」を最も利用しており、40代では「テレビ」と「インターネット」が同率、それ以外の各年代では「テレビ」を最も利用しています。
- 「趣味・娯楽に関する情報を得る」ために最も利用するメディアとしては、全年代では「インターネット」が71.1%と最も高いです。年代別では、10代から60代では「インターネット」、70代では「テレビ」を最も利用しています。

メディアの重要度・メディアの信頼度

- 「情報源としての重要度」は、全年代では「テレビ」が81.3%と最も高いです。年代別では、10代から40代では「インターネット」が最も高く、50代から70代では「テレビ」が最も高いです。
- 「娯楽としての重要度」は、全年代では「インターネット」が80.4%と最も高いです。年代別では、10代から40代では「インターネット」が最も高く、50代から70代では「テレビ」が最も高いです。
- 「メディアとしての信頼度」は、全年代では「新聞」が59.9%と最も高いです。年代別では、30代及び70代を除く各年代では「新聞」が最も高く、30代及び70代では「テレビ」が最も高いです。

若者の「テレビ離れ」 映像が選べる時代に

テレビの平均利用時間は、10代では39.7分、70代では310.7分です。逆に、インターネットの平均利用時間は、10代では243.4分、70代では72.4分です。インターネットが社会インフラとして定着し、ユーチューブなどで誰もが「Myテレビ局」を開設できるようになり、「テレビ離れ」は進みました。映画などのサブスクリプションサービスも定着し、いまや映像情報は日常にあふれています。映像を選べる時代となり、テレビを見ない人が増えています。

「新聞離れ」も進行 10代・20代の若者はほとんど新聞を読んでいない

新聞の平均利用時間は、10代では0.5分、70代では30.5分。全年代でも9.0分です。ほとんど読まれていません。新聞の場合は、テレビに加え、ネットメディアが発達したことで、いわゆる「紙離れ」が進んできました。

電車に乗っても、新聞を広げて読んでいる人はほとんど見かけなくなりました。その代わり、スマートホンをいじっている人が多くなりました。地方紙では、廃刊や休刊、夕刊の撤退が進んでいます。新聞販売店では、配達部数の減少に加え、過疎エリアが広がり、いまでは路線バスに過疎地まで輸送をゆだねる事例もあるという。過疎地では、「朝刊は朝届くもの」という常識が過去のものとなっているという。

新聞の発行部数の推移 総発行部数6.9%減 2,661万部 減少傾向が止まらない

新聞協会の発表によると、協会加盟の日刊106紙の総発行部数は、2024年10月時点で2661万6578部、前年比6.9%減、部数で197万3908部落ち込みました。106紙の内訳は、一般紙92、スポーツ紙14、発行形態別で朝夕刊セット紙20、朝刊単独紙76、夕刊単独紙10。「夕刊フジ」は、今年1月で休刊となっています。

吉田浩恵さん 「机上には猫とお知らせがあった」を出版 事務室だよりがエッセイに

東学組合員の吉田浩恵さんが、「机上には猫とお知らせがあった」と題する本を出版しました。単なる「事務室だより」ではなく、児童や教職員とのかかわり、自身の家族の話、何よりも猫の話が面白いです。東学組合員のみならず、「事務室だより」を発行している事務職員などに広くお知らせいたします。出版社は文芸社、定価1,000円＋税です。

「『事務室からのお知らせ』を発信することで、先生方とのコミュニケーションがとれるのではないか」という思いから、このお知らせを作成した次第です。事務連絡ツールだったお知らせが、読んでくださる先生方から良かったと好意的な感想をいただくと、私自身、来月のお知らせは何を掲載しようかと作る楽しさに変わっていききました。『学校事務』は学校を支える裏方であり、だからこそ学校の抱える様々の懸案事項や、児童、保護者、地域との関係性も見えてきます。そこでこのお知らせの中には、情報だけではなく、職務上いろいろな問題を抱えているであろう先生方がほっとするような話題も載せるよう心がけました。こうして、お知らせは単なる事務連絡ツールからコミュニケーションツールになりました。是非、一読してみてください。